

Sachito Higa

ひが さちと
比嘉 祥人

クロマティック・ハーモニカ

比嘉祥人

クロマティック・ハーモニカ コンサート



富山県朝日町出身。3歳から沖縄県浦添市で過ごす。6歳の頃より独学でハーモニカを吹き始める。小学校6年生の頃、浦添市小中学生音楽祭オーディションに合格。2000年より世界的ハーモニカ奏者の和谷泰扶氏に従事。2004年、F.I.H.JAPANハーモニカコンテスト(年1回東京にて開催される国内最大のハーモニカコンテスト、クロマティック・ハーモニカ/クラシック部門、クロマティック・ハーモニカ/ジャズ&ポップス部門、複音ハーモニカ部門、アンサンブル部門、ブルース・ハーブ部門等があり、参加者数百名)において、初出場で第1位及び総合グランプリ受賞。2005年、ワールド・ハーモニカ・フェスティバル(4年に一度ドイツ・トロツィンゲンで開催され、ハーモニカの大会としては世界最高峰。参加者数は世界各地より数百名に及ぶ)において、第2位受賞。1位とはわずか0.2ポイント差での受賞。2006年、アジア・太平洋ハーモニカ大会(台湾で開催。2年に一度アジア地域の各地域持ち回りで開催され、参加者のほとんどがアジア地域からの参加)において、第2位受賞。同年、北九州ハーモニカコンテストに出演。2007年、日本ハーモニカ賞[奨励賞]を受賞。2011年、毎年東京で開催されている、上野の森コンサートに出演。2012年沖縄県宜野座村のがらまんホールに於いて、初ソロ・リサイタルを開催。2013年ワールド・ハーモニカ・フェスティバル(ドイツ)において第2位受賞。現在、富山在住。開進堂楽器・新川学びの森天神山交流館ハーモニカ講師。



むらかみ えみり

ピアノ 村上 笑吏 Emiri Murakami

富山県高岡市在住。幼少時から、数々のコンクールにて、優秀賞を受賞。ポーランド国立クラクフ管弦楽団とピアノコンチェルト2年連続共演。富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース、東京音楽大学音楽学部音楽学科器楽(ピアノ)卒業。大学在学時より、音楽レーベルに所属し、ユニットのメンバーとしてkeyboard担当のCDを発売。その他、多数のアーティストと共演し、活動の幅を広げる。現在、ヤマハPMS認定講師・開進堂楽器ピアノ講師、混声合唱団 合唱団となみ専属ピアニスト。また、地元富山を拠点とし、クラシックからジャズやポップス、ダンスミュージックまで、ジャンルにとらわれない独自のスタイルで、様々な演奏活動を行っている。



クロマティック・ハーモニカとは

ハーモニカ自体は、1820年ごろにオルガンの調律用の道具が起源とされているが半音階も出せるハーモニカは1920年代に開発され「クロマティックハーモニカ」と呼ばれている。「クロマティック」というのは英語で半音階という意味で、ピアノで言う黒い鍵盤にあたる。半音を出す時は、右にスライドと呼ばれるボタンのような物が付いており、それを押すと半音あがる仕組みになっている。普通のハーモニカは、1つ目の穴を吹いてド、隣の穴を吸ってレ、また隣の穴を吹いてミ、更に隣の穴を吸ってファとなっているが、クロマティックは1番の穴を吹いてド、同じ穴を吸ってレ、2番の穴を吹いてミ、吸ってファ、3番の穴を吹いてソ、吸ってラ、4番の穴を吸ってシ、吹いてドとなっており、4つの穴で1オクターブが出せる仕組みになっている。普通のハーモニカでは、例えば「ミ」の音を出す場合、レミを啜えても、ミファ、レミファを啜えてもミの音が出るが、クロマティックの場合はそれぞれの穴に吹吸の音が組み込まれているため、少しでもすれば隣の音が鳴ってしまうという高度な技術が必要とされる楽器である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
吹	ド	ミ	ソ	ド	ド	ミ	ソ	ド	ド	ミ	ソ	ド
吸	レ	ファ	ラ	シ	レ	ファ	ラ	シ	レ	ファ	ラ	シ
吹	ド#	ファ	ソ#	ド#	ド#	ファ	ソ#	ド#	ド#	ファ	ソ#	ド#
吸	レ#	ファ#	ラ#	ド	レ#	ファ#	ラ#	ド	レ#	ファ#	ラ#	レ

← 押す

富山県高岡文化ホール

〒933-0055 高岡市中川園町13-1
TEL.0766-25-4141
FAX.0766-25-4332
e-mail:takabun@p1.coralnet.or.jp

- 駐車場の台数には限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
- 未就学児のご入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)をご希望される方は、公演日の2週間前までにお申し込みください。
- 公演の内容は、都合により変更になる場合があります。

